

西神ニュータウン研究会 会報

第249号 2025年7月

■第249回例会記録

- ・日 時 2025年6月19日(木) 18:00~19:50
- ・場 所 神戸市外国語大学サテライトセミナー室B ・参加 27名
- ・テーマ 北前船のロマン～天然の良港・兵庫津と北風家の奮闘～
- ・講演者 中山尚憲氏(北前船ロマン研究会代表)



□講演概要

1. 北前船と誕生の背景

北前船とは

- 江戸時代半ば(18世紀後半)から明治30年代にかけて1世紀半活躍した。
- 大坂から瀬戸内海と日本海の各湊(港)を寄港しながら、蝦夷(北海道)を結んだ。
- 「北前船」は瀬戸内地区の人から、瀬戸内から「北の方(北前)」の日本海を進む船の総称として呼ばれたものである(他の説、例えば「北廻り船」が変化)。
- 日本海側の地域は、今日では「裏日本」と言われますが、北前船が活躍した時代は、賑やかで活力のある「表日本」地域でした。

北前船ロマン研究会 2

北前船のイメージ

- 春から夏に、日本海を対馬海流と南からの偏西風を利用して北上し、蝦夷地に向かって帆走し、秋にはシベリア高気圧からの季節風の北風を利用して南に向かいました。
- 1年に1往復の航海が主流。
- 特徴的な巨大な一枚帆と巨大な舵を持つ「弁才船」と呼ばれる和船です。
- 風さえあれば1枚帆でありながら、帆走力があり、櫓や槳を全く使わないので、千石以上を積み込める大型船でも10数人で運航することができました。

- 北前船の大きさ
長さ30m 幅8m 弱
帆柱27m 吃水2.3m 排水量170t
- 千石積み=150t積み(米2,500俵)
- <比較>
- 威臨丸 620t
- 長さ48m 幅8.5m
乗組員107人
- 木造・3本マスト
- 遣唐使船
- 長さ30m 幅7-10m
乗組員150人

北前船ロマン研究会 3

2. 北前船の活躍

北前船の誕生(貨積船から買積船への転換)

- 場所請負人の新旧交代で、近江商人の傘下で買積船として下請けができなくなった船主は、独立自営の廻船業の道に転換せざるを得なくなりました。
- 新しい場所請け人からニシン等を買付ける問屋や、金融業などの商人として、それまでの代々に係る単なる運ぶだけの買積船の経営から「買積船」への大転換だったのです。
- 「買積船」の主役は、操船技術に長け、商品価格の地域差を熟知し、どの湊で売買すれば利益を最大化できるかを判断できる船頭でした。
- 船主は有能な船頭(沖船頭)を雇って、かつ、船頭の利益を確保する仕組みとして、積み荷全体の1割ほどを船頭は自己資金で買入、それを売却できる「帆待」を制度化し、認めたのです。
- 船頭は、市場での相場情報を素早く掴む才覚と、湊で大胆に売買できる商才を発揮すれば、船頭自身だけではなく船主にも莫大な利益を確保できることになりました。
- ここに「1航海千両(1億円)」の利益を生む、北前船が誕生したのです。

北前船ロマン研究会 12

1航海千両(1億円)を稼ぐ

- 出発地は何でも揃う「天下の台所」大坂
- 蝦夷地と大坂を結ぶ買積船の北前船は、途中の多くの寄港地や風待ち・潮待ち港で商売をした。
- 酒谷家の幸長丸は、1863年の蝦夷地域行きの「下り」で105両の利を、大坂行き「上り」で932両の利の計1037両を得ている。
- 支出分の船中雑費217両を差し引くと、831両の利益となった。
- 北前船の造船費は千石積みで約1000両、その寿命は約20年で、年間70両の維持費が必要であった。

「北前船の里資料館」の資料より

北前船ロマン研究会 13

3. 天然の良港・兵庫津を誕生させたロマン

4. 「北風家」誕生のロマンと活躍

天然の良港・兵庫津を誕生させたロマン

- 父・明石海峡(瀬戸)の潮流
瀬戸とは狭い水路の意。干満の潮位の差による速い潮流(13.1km/h)が発生。福田川や妙法寺川から流出した砂は、堆積せず、和田岬*という砂嘴を作った。→南西の風防御
- 母・湊川の水系
湊川の水系は六甲山系裏側の鈴蘭台地域*を含む神戸市で最も広い流域を持つため、和田岬の背後を埋め堆積地を作った。→港町を形成

河川名	流域面積	河川名	流域面積	河川名	流域面積
明石川	約 50 km ²	石川	約 11 km ²	明石川	約 50 km ²
神谷川	約 22 km ²	伊賀川	約 11 km ²	本郷川	約 1,070 km ²
神谷川	約 22 km ²	伊賀川	約 11 km ²	本郷川	約 1,070 km ²
神谷川	約 22 km ²	伊賀川	約 11 km ²	本郷川	約 1,070 km ²

兵庫津は水深が深く、大坂・堺は水深が浅い

北前船ロマン研究会 16

「北風家」の誕生のロマン

- 北風家は『北風家通事』によれば、神功皇后以来の4世紀頃から兵庫の浜で町方の主的存在で、かつては「白藤家」と呼ばれていた。
- その功績に天皇方の新田義貞は喜び、この時までの一族の姓「白藤」に対し、新姓として「喜多風」を与えました。
- さらに、当時第44代の当主惟村に、自分の名の一文字「貞」をあてた貞村と名乗らせたのでした。
- 1336年2月に武家側の足利尊氏に天皇謀反の疑いで、新田義貞に追悼令が出され、九州に逃げようとする兵庫津まで退却しました。
- ここで軍船300艘を整え、諸将とともに乗船しようとした際に、白藤家一党が船で襲撃しました。

- 当日は北風が激しく吹く夜で、足利方の船団は大きく乱されました。
- その功績に天皇方の新田義貞は喜び、この時までの一族の姓「白藤」に対し、新姓として「喜多風」を与えました。
- さらに、当時第44代の当主惟村に、自分の名の一文字「貞」をあてた貞村と名乗らせたのでした。
- この家系伝承から、北風家当主には「貞」の字の付く字が使われるようになりました。

北前船ロマン研究会 17

北風家の兵庫津での奮闘

- 1769年の「上知令」により、兵庫津は尼崎藩領から幕府直轄領に
- 老中田沼意次が、幕府の増収、「天下の台所」大坂の物流中枢を維持・強化のため、兵庫津や酒造で名高くなった灘目三郷・西宮灘に注目。
- 上知令直後に、大坂の商人に問屋株(排他的に営業権)を認め、運上金や冥加金を幕府に納入させた。
- 兵庫の問屋株は否定され、大坂の商人から多額の費用で株を借受して、営業継続。
- 北風荘右衛門貞幹は兵庫津独自の株仲間を結成して問屋株を大坂から買収するために、所有している倉庫を抵当に借り入れ、買収した。
- 1775年には商業上最も大切な「3仲間」と言われた諸問屋株・穀物仲買株・干鰯仲買株などが認められた。
- 大型船が停泊できる兵庫津は、大坂へ廻漕する米穀や肥料などの貨物も兵庫問屋が直接引き受け、買積船の入港増加の勢いが助長し、大坂より兵庫で取引されるものが多くなった。

北前船ロマン研究会

19

「兵庫の北風か、北風の兵庫か」

- 全国の船乗りが兵庫津に寄港すると、北風家の船宿で、「北風の湯」で湯を浴びてもらい、酒の振る舞いでもてなした。
- 世間話や苦労話の合間に、全国各地の物産の荷動きなどの重要な情報交換の場となり、才覚と技量が求められる船頭たちの交流サロン、情報センターとなった。
- 兵庫津への寄港を推進させることになっていった。
- 「兵庫の北風か、北風の兵庫か」
II
「買積みの荷を積んで兵庫津に行き、北風家の店頭で売る」の船頭間の合い言葉となった。
- 大坂は最終荷下ろしだけの港で、兵庫津は船頭たちにとって、温かく迎えてくれる母なる港になった。

北前船ロマン研究会

23

5. 北風荘右衛門貞幹のもう一つの偉業

6. 明治時代に入った北風家のその後

北風荘右衛門貞幹のもう一つの偉業

- 北風家は兵庫津で「これは使える」と見込んだ人材に投資して、育てることで、兵庫津の繁栄に結びつけ、自ら利益を獲得する戦略も展開しました。
- 貞幹は、北前船の船持ち船頭だけではなく、工樂松右衛門や高田屋嘉兵衛というその後の日本の海事に関わる分野で活躍する人材を産み出した。
- ①工樂松右衛門 播州高砂の漁師から、兵庫津の船具商に奉公し、大胆不敵な操船技法で、34歳で大型船の沖船頭(雇われ船頭)を務めた。多種多様な船具の工作にも才覚を現し、弱点だった帆の改良の試作を始めた時、貞幹はその発明工夫の異能に着目し、7年にわたる物心両面の支援し、「松右衛門帆」を1785年に完成させ、和船の大型化、航行速度の向上させました。
- ②高田屋嘉兵衛 淡路島の貧家に生まれ、22歳で淡路島出身の和泉屋で水主となり、知識や技術を身につける。沖船頭として樽廻船で江戸への灘の新酒積競争に1番船の名誉を得る。その操船航海の才を見込んだ北風貞幹のリスクがあるが利益の大きな仕事委託の支援しました。

北前船ロマン研究会

24

明治時代に入った北風家のその後

- 兵庫津の発展を支えてきた北風荘右衛門家の北風正造(66代荘右衛門貞忠)は、幕末時には勤王愛国の豪商として西郷隆盛や伊藤博文等と連絡を取り、討幕運動に奔走し、資金を惜しみなく提供し、明治維新を成功させることに貢献しました。
- また、姫路藩に討伐軍が迫ったときに、軍に資金を出したことで、姫路城(1993年に日本初の世界遺産登録)の無血開城に成功し、姫路城を戊辰の戦火から救いました。
- 神戸港開港後には、大阪一神戸間の鉄道の敷設に、現在のJR神戸駅付近の土地を献納し、湊川神社の建立、湊川流路を新湊川に付け替える工事などにも奔走しました。
- 一方で、米・肥料の思惑買いに失敗し、政府の緊縮政策あおりを受けるなどの悪条件が重なって、豪商北風家はあっけなく倒産してしまいました。
- そして、その後の神戸港の発展の歴史から、風のように姿を消すことになりました。

北前船ロマン研究会

28

(注) 約 100 分にわたる講演に使われたパワーポイントの中から 10 枚を抜き出して掲載しています。

「北前船ロマン研究」は、次のホームページから見るができます。(「北前船ロマン研究会」で検索)

<https://www.eonet.ne.jp/~nakayamahisanori/index.html>

□質疑と意見

○兵庫津は神戸の歴史の中心として重要だが、現在はほとんど顧みられていない。行政も力を入れているようには思えない。神戸市も兵庫県ももっと力を入れてほしいと思う。

→たしかに今は神戸の中心ではない。高田屋嘉兵衛や工樂松右衛門及び北風家の歴史に残る活躍をもっとPRしたいと思う。

○北前船は何艘くらいあったのか？

→民間主体の経済活動だったこともあり、当時から記録が残っていないようだ。わからない。

残念ながら北前船のことは現代人にあまり知られていない。

(だからこそ、「北前船ロマン研究」には大きな意義がある←講義を聴いた大塚の感想です)

■予告 中山尚憲氏による続きの講演を9月18日(木)に予定しています。

演題(仮)は「国境の島・択捉島死守に奮闘した高田屋嘉兵衛」です。

(文責 大塚)

ヴィンテージタウンをめざして～まちを住み熟(こな)す～

西神ニュータウン研究会

<http://seishin-ntken.net>